

米子医療センター がん医療講演会

米子医療センター(米子市車尾4丁目、浜副隆一院長)の「がん医療講演会」が4日、米子コンベンションセンター・小ホールで開かれた。全国各地で「がん哲学外来」を展開している順天堂大医学部病理・腫瘍学教授の樋野興夫氏などが講演。心を打つ「言葉の処方箋」に大勢の市民が耳を傾けた。要旨を紹介する。

特別講演 「病気は人生の夏休み」
順天堂大医学部病理・腫瘍学教授
樋野興夫氏



樋野氏との対話で、心を通わせるがん患者ら

「あいさつ」
米子医療センター院長
浜副 隆一

推進基本計画」により、日本のがん医療は大きく変わりました。がん診療連携拠点病院である当院でも、がん患者サロン、がん相談支援センターを開設し、がんの正しい情報の提供、また相談・支援に努めてまいります。今回は「がん哲学」とは何か、「満足な最期」はどうか、「がん哲学外来」は「がん対策基本法」が施行された年であり、これに基か、皆さんと一緒に考えてついで作られた「がん対策



樋野興夫氏囲み記念の集い

心を開ける場所に

米子医療センターのがん患者サロン「スマイルサロン米子」が1月に10周年を迎え、記念の集いが4日、樋野興夫氏を囲んで米子コンベンションセンターであった。

がん患者ら11人が参加。先立つて行われた講演会で、樋野氏が「がん哲学外来」を開く取組でも、がん哲学外来の開設を呼び掛けた樋野氏との対話が展開した。

「空っぽの器を用意する。あとは来た人が自ら水を器に入れる。心を開ける場にして

「病気は不条理だ。1日1日を精いっぱい、何事にも無邪気に喜んでやることで」

「がん哲学外来」を開く取組でも、がん哲学外来の開設を呼び掛けた樋野氏との対話が展開した。

「標準的治療は医療技術の積み重ね。がんは個性が高い。自分でコントロールできないことに一喜一憂しても疲れるよ」

「がんサバイバーです。誕生日はあつ何回あるのか。世の中の役になっているのか」

僕は島根県に生まれまして。おやじは船乗りで、母親に育てられた。けがをして庭に落ちたトビに、母親が毎日餌を与えた。トビは傷が治ると去っていった。1年後、家の上を旋回して羽を落としました。鳥の恩返し。人間も恩返しをしないと。僕の原因です。

■共存

新たにがんと診断される患者が1年間に100万人を超える時代です。80歳まで生きていけば2人に1人はがんになる。生きることが、がん化への道。もはや「がん共存する」時代です。

1個の細胞を地球に例えると、染色体は国、遺伝子は町、遺伝子を構成する塩基は人間の大きさです。塩基1個の異常でも細胞はがん化する。と

「がん哲学は、南原繁 戦

医療の隙間を埋める対話 ～言葉の処方箋～

■天寿

世界で初めて人工発がんに成功した山極勝三郎(病理学者)、肝がんを創生した吉田富三など、日本は人工発がんの創始国です。20世紀はがんを作る時代でした。21世紀はがんを遅らせる研究で再び世界をリードします。

例えは40歳でがんになつた。たせむてくたつた。

後初代東京大総長の政治哲学者、吉田富三(元がん研究所長)のがん学をドッキングさせたものです。「がん細胞の道だから、天寿が起る」と吉田は言った。僕はこれをがん哲学と定義しました。

今、日本の医療者は、馬の上から花を見ています。馬を交感神経と副交感神経など下りて患者と同じ目線で花を見ていません。「病院に行っても先生は3分間の診察中、パソコンばかり見ている。顔も見えない」。患者さんからよく聞かれます。

「がん」にもかわらぬ医療者と患者が対等の立場で対話する場、医療の隙間を埋める場として開設したので

■言葉

小学生に夢を聞かれ、「7人の侍と一緒に天国でがん哲学外来カフェを開催すること」と答えました。7人は、先づ5人と勝海舟政治家、新島襄(教育者)です。

がん哲学外来は、「暇げな風貌」と「偉大なおせっか問はいつも判断の分かれ道に立っています。答えを選ぶのがあなた自身です。

「なぜ自分だけが死ななければならないのか」。こうした答えのない問い、スピリチュアルな痛みを説明するのには村田理論(村田久行氏)があります。

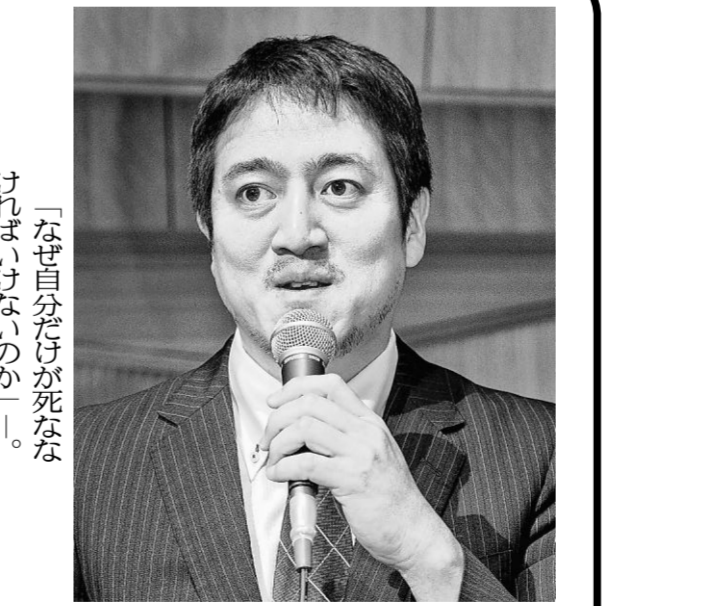
人の存在を支える三つの柱、時間存在「関係存在」「自律存在」があり、平面を水平に保っています。時間存在は、過去の経験を通して今を生きようとする柱。関係存在は、他者との関係に支えられた柱。自律存在は、自己決定の自由がある柱です。

将来の目標や、自分を支えてくれる大切な関係、自己決定できる自由があるとき、人の存在は安定します。ところが、がんなどの病

■個性

人には最後に死ぬという大事な仕事が残っています。哲学者カントの臨終の言葉を知っていますか。「これでよい」です。勝海舟は「これでおしまい」。内村鑑三の難病で亡くなった娘は「もう行きます」。人間、最期はこの三つどれか。皆さんも準備しておいた方がいい。これを「クオリティー・オブ・デス(死の質)」といいます。

医師には二つの使命があります。一つは学問的、科学的な責任で病気を直接治療する。もう一つは人間的な責任で手を差し伸べることで、これがおそろかになつてい



講演「終末期におけるスピリチュアルペインについて」

講演 「終末期におけるスピリチュアルペインについて」
米子医療センター緩和ケア内科医師 **松波馨士氏**

存在を支える3つの柱

- 時間存在
- 関係存在
- 自律存在

村田理論(村田久行氏)より

大切な「問いかけ」「反復」「沈黙」

「Not doing, but being.」(英国)の言葉です。「苦しんでいる人を見たとき、そばに寄り添ってあげてください」

米子医療センター・がん相談支援センター
米子市車尾4丁目 電話=0859(37)3930
相談日=月～金曜日(土日・祝日除く)
時間=午前8時半～午後4時